子育てサポーター活動における子育て経験の活用

－子育て経験を持つ中年期女性サポーターの語りから抽出された世代性の検討－

吉田　ゆり*，　山下　桂子**，　若本　純子***

THE CHILD-REARING EXPERIENCE OF CHILD CARE SUPPORTERS ACTIVITY: —A STUDY OF THE GENERATIVITY IN MIDDLE-AGED WOMEN AFTER CHILD-REARING, THROUGH THE DISCOURSE OF ANALYSIS—

Yuri　YOSHIDA,　Keiko YAMASHITA,　Junko WAKAMOTO

問題の背景

我が国においては少子化の進行は歯止めがかからず，さらに育児不安や困難が顕在化した等の背景から様々な子育て支援活動が広がっている。子育て支援の現場では，様々な職種や人材が活用され活動している。そのひとつに，子育てサポーター制度がある。

子育てサポーターとは，「重点的に推進すべき少子化対策の具体的実施計画について（新エンゼルプラン）」（総務省 HP）において，地域で子どもを育てる教育環境の整備の一つとして初出して以来，少子化対策プラスワン（厚生労働省）においては「子育て経験のある方などを子育て相談や子育てサークルの支援を行う『子育てサポーター』として活用」する方針が示され，子育て経験者等を対象とすることが示された。主に子育てひろば等で子育てやしつけに関する悩みや不安を持つ親に対して，気軽に相談を受け，きめ細やかなアドバイス等を行うことを期待され，現在までこの試みは形態を変えながらも継続している。

子育てサポーター制度において特筆すべきは，子育て支援の場において，主に子育て経験がある女性たちの力が求められていることである。子育てサポーター制度は，主に子育て経験者を子育て支援活動に活かす公的な取り組みであり，公共性も高く，今後も継続されることが想定される事業であるとも言える。では実際には子育てサポーター活動は，参加する女性にとって，自身の子育て経験を活かす場となっているのだろうか。

中高年女性が子育て支援活動に参加することを扱った先行研究においては，加藤（2010）の一時預かり活動，田渕（2005）の読書ボランティア活動などがあるが，これらの活動は

＊ 長崎大学教育学部　教授
＊＊ 鹿児島市役所母子保健課　臨床心理士
＊＊＊ 佐賀大学教育学部　准教授

子育て経験があることを条件とはしていない。子育てサポーター活動そのもの，さらに自身の子育て経験を活かす場としての活動としての評価に関する実証的研究は見当たらない。

一方，子育てを終えた女性たちは一般的に中年期に達していると考えられるが，中年期の発達的特徴を説明した概念として，Erikson の世代性が著名である。世代性とは，Erikson（1977）によって提唱された心理社会的生涯発達論の，第Ⅶ段階（中年期）の心理社会的危機として示され「次世代を確立させ導くことへの関心」と説明された。後に Erikson 自身が「子孫を生み出すこと＝procrativity，生産性（productivity），創造性（creativity）を含合するものであり，（自分自身の）さらなる同一性を創発させていく一種の自己－生殖（self-generation）も含めて新しい存在や新しい製作物や新しい観念を生み出すこと」と定義され基本的には次世代を確立されて導くことへの関心であり，生きとし生けるものに対する世話（care）という世代継承的な意味で必要なものであると再定義した。これによって，Erikson の世代性とは第一義的な親役割のみを意味したものからより広い包括的概念になった。

McAdams & de St.Aubin（1998）は，Erikson の世代性概念は臨床的経験及び研究から導き出したものであり，その斬新さの半面，曖昧で構造化されていなかったことを指摘した。彼らは，世代性のテーマは，世話的，創造的，世代継承的であると再定義し，７つの心理社会的構成概念を見出した。我が国における世代性研究においても，この３つが世代性のテーマとして支持されている。この世代性のテーマが明らかになるプロセスは，一つの全体図として図式モデルを示され，モデル図式を世代性概念構成図（anatomy of generativity）と呼ばれる。

この世代性概念構成図は，まず世代性の動機づけとして(a)内的希求（inner desire）：永続的な個としての実現を希求すること，象徴的な永遠の生命，必要とされることを必要とするような個人の内面を突き動かす強い希求性，(b)文化的要請（cultural desire）：各々の文化において期待される年齢相応の人格的発達（発達的期待）や社会貢献（社会的機会），責任に対して答えようとする動機に始まる。特に(b)文化的要請は，ヒトとして

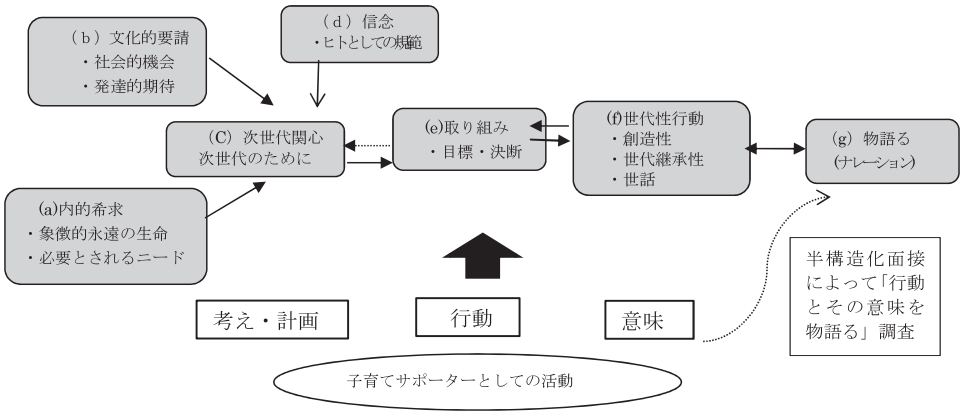

図１　本研究の分析の枠組み

（McAdams & de St.Aubin（1998）の世代性概念構成図をもとに丸島（2009）が作成した図に筆者が加筆）

の規範など，あるべき姿や普遍的な(d)信念（belief）にもとづく関心を喚起させる。また，(a)内的希求及び(b)文化的要請のいずれも，次世代のために(c)次世代関心(concern)を喚起させる。この信念や関心のもと，具体的な目標をもち(e)取り組み（commitment）を始め，(f)世代性の行動（action）をとるようになる。さらにこうした過程である自伝的エピソードを(g)物語る（narration）ことによって内省し世代性が確立する（丸島2009）の訳を参考)。このことから，中年期女性が自身の子育て経験を活かして次世代の子育てを支援しようと活動することは，彼女らの持つ世代性に他ならないと言えるのではないか。

目　的

本論では，子育てサポーター制度により活動する中年期女性が，活動によって世代性を獲得していることを明らかにするために，世代性が獲得されているかの検討として，McAdams & de St.Aubin（1998)の枠組みによって，活動に参加してから今回の調査までの語りの内容から，世代性獲得の３段階である動機・関心の段階，考え・計画の段階，行動の段階それぞれの要素や世代性のテーマが含まれるかどうかを検討しさらにその内容を分析することで，また獲得に至るプロセスを明らかにし，自身の子育て経験を活かして子育て支援活動へ参加したいという参加動機を高めるものとなるかについて検討することを目的とする。

方　法

対象者　子育てサポーターとして活動する子育てを終えた中年女性を対象に，複数の子育て支援の場に紹介を依頼し，研究協力の同意を得た３名を対象とした。平均年齢は51.00（*SD*=1.00）であった。以下対象者をA，B，Cと表記する。

面接実施期間　2010年12月～2011年１月。

面接手続き　個別の自由度の高い半構造化面接を行った。対象者に対しては，面接実施前に本研究の目的，面接中の録音の承諾やプライバシー保護，所要時間等に関する説明を行い，面接承諾書に署名を得た。面接場所は対象者の希望に基づき，子育て支援施設の一室及び喫茶スペースにて行った。面接は１回，所要時間は約100分～160分（平均138分）であった。子育てサポーターとして活動する中年女性の語りの中に，世代性が含まれているかどうか抽出するため，できるだけ自然な会話になるよう心がけた。質問の内容は，略歴，自分の子育て経験について，なぜ子育てサポーター活動をはじめたのか，現在の活動を通して感じたこと，今後も活動を続けていきたいと思うかを中心に質問した。

結果と考察

対象者のプロフィール

調査対象は３名である。対象者のプロフィールを表１に示す。

対象者は全員に子育て経験があり，子育てひろばの子育てサポーターとして活動３年目であり，３名とも活動場所は異なっている。子どもの平均年齢は23.33歳（*SD*=2.07）で全員成人を迎えている。職業については，Aは専業主婦，B及びCは有職者（パート）であった。

表１　対象者のプロフィール

	A	B	C
年代	50代	50代	50代
同居家族構成	夫・A・長女	夫・B・夫の母	C（夫：単身赴任）
実子の数・年代等	２人 ①20代・社会人・独身 ②20代・社会人・独身	２人 ①20代・社会人・独身 ②20代・社会人・独身	２人 ①20代・社会人・独身 ②20代・無職・既婚
現在の職業の有無	無	有（パート）	有（パート）
職業経験の有無	有（事務職）	有（教育事務）	有（事務職）
子育てサポーター歴	３年目	３年目	３年目

分析の枠組み　筆者らは，子育てサポーター活動を行う，子育て経験を持つ中年期女性ボランティアなどから，「子育ての経験を活かしたい」「私も助けてもらったから」「子育てについて次世代に伝えたい」などの活動に参加した動機を耳にする機会があった。これらは彼女らの活動は，まさに子育て経験を活かしたものであることが推測され，さらにそれは世代性のテーマとの密接な関連が感じられる。しかし現在子育てサポーター制度については，その活動そのものに関する評価をはじめ，期待されたサポーターの子育て経験を活かす場としての活動の評価などに関する実証的研究は見当たらず，世代性の枠組みでの検討も行われていない。

よって，活動に参加する子育て経験を持つ中年期女性が，子育てサポーターの活動について語ることで，世代性の全体像を明らかにすることができれば，彼女らが，自らの子育て経験を活かして活動に参加し，世代性を確立していると評価することができるのではないか。すなわち，彼女らの世代性獲得のプロセスを明らかにすることで，今後の子育て支援活動に従事する人材として，子育て経験を持つ中年期女性が意義を持つと言えると考えられる。

本研究の分析の枠組みを図１に示す。McAdams & de St.Aubin（1998）の心理社会的構成概念７要素（以下，各要素を「〇〇」と表記）のプロセスが示された世代性概念構成図に従い，自伝的エピソードに基づいた「(g)物語る」形によって，世代性の全容が明らかになるという立場を踏まえ，半構造化面接によって得られた語りを分析の対象とした。

得られた語りを以下の手順により分析した。①面接の録音記録を逐語文字化し，②逐語録を精読した後，③一つの区切りの発言（１－５文程度）を１発言とカウントした。この結果発言数は668個（A：224，B：158，C：198）であった。④このうち，世代性のテーマ（世話的，創造的，世代継承的）が含まれると考える発言を抜き出した。抜き出す作業には，発達心理学を専攻する大学院生２名に評定を依頼し結果を協議，合意のもとに決定した。発言数は194個（A：89，B：46，C：59（一致率81.3％）であり，これを分析の対象とした。⑤図１の枠組みに従い，要素「物語る」以外の６要素を多く３つの段階として，「動機・関心（活動を開始する動機となったこと，関心の内容）」「考え・計画（活動することについての自らの考え，計画したこと」「行動（活動することによって感じたことや得たこと）」の３つに分類した。⑥３つの段階の発言を，丸島・有光（2007）の世代性尺度の具体的な項目を参考に各キーワードの特徴を記述した評定基準を作成し（表２），各要素に該当するかどうか評定した。⑤各カテゴリーに所属するものを，共通する内容を持つ発言をグループ化して命名し，下位カテゴリーとした（行動の段階はデータが多く，下位・中位カテゴリーとした）。グループ化と下位カテゴリーの命名は第一筆者と第二筆者があたった。また，分析対象の発言はすべていずれかのカテゴリーに含まれた。さらに一つの発言が複数のカテゴリーに該当すると思われる場合には，それぞれのカテゴリーに重

表２　世代性概念構成図の６要素の概要と評定基準

段階	要素	概要とその内容・キーワード	
動機・関心	内的希求	内的な動機付け。永続的な個としての実現を希求すること。（象徴的な永遠の生命） 必要とされることを必要とするような成人個人の内面を突き動かす強い希求性（必要とされる必要性）	
		内　容	・誰かに必要とされたい ・自分の経験（特に子育て）による知識や技術を次の世代に伝えたい ・自分の夢が実現するような関心を発見したい ・自分のために新しいことを始めたい
	文化的要請	外的な動機付け。それぞれの特定の文化にある成人に対して年齢相応の人格的発達や社会への貢献や責任が期待され，成人はそれらを担う役割に傾倒しようとする動機。	
		内　容	・中年期なので社会にかかわることが求められる ・大人として社会に貢献していかなければと考える ・中年期に入ったからには若者の手助けをしていきたいと思う
	世代性の関心	上記２つの動機づけの領域を源とした「次世代のための」関心を喚起される。	
		内　容	・次世代のためにどんなことができるだろうかと関心を持つ ・現代の次世代が行う子育てはどんなであろうかという関心
	信念	人間として受け継がれてきた規範，基本的信頼感を中心とする考え	
		内　容	・関心を持ったことが道徳的・社会的に望ましい行動だろうという確信
考え・計画	取組み	世代性獲得のための具体的な目標を果たすための取組み。 本研究では子育てサポーター活動を指す	
		内　容	・子育てサポーター活動を選んだ決断に関わること ・子育てサポーター活動に関する自分の計画，見通しに関わること
行　動	世代性行動	創造性：世代性の意味内容の生み出す，つくりだす行動	
		内　容	・活動によって，自分の夢が実現している ・私は変わったことや珍しいことをするのが好きだ ・これからずっと関わっていけるものとして行動している（したい）
		世代継承性：世代を継承していくこと	
		内　容	・子育ての知識や技術を伝えたい ・私の死後にも残るようなことに携わりたい
		世話：他者の世話やコミュニティへの貢献	
		内　容	・人が私を必要としているように感じられる ・困っている人を見るとつい手助けがしたくなる ・現在の活動において多くの貢献をしている

* 内的希求・文化的要請カテゴリーは，その動機付けが内的か外的かによって分類した。
* 創造性・世代継承性・世話は，活動に参加する動機として語られた場合には動機・関心として，行動によって得られたテーマとして語られた場合には行動として評定した。

複して分類を行い，図式化の際には密接な関連があると考えてカテゴリー間に矢印を付した。

活動の動機・関心の段階の発話内容とプロセス

子育てサポーター活動を始める動機・関心にかかわる発言内容を表３に，得られたカテゴリーの関連とプロセスを図２に示す。活動の動機として「子育て経験を活かして」「仕事経験を活かして」と命名したカテゴリーが得られ，自分の経験による知識や技術を伝えたいという世代継承性が，さらに「自分のための新しいことへの関心」と命名したカテゴリーには創造性も確認でき，活動の動機には世代性のテーマが含まれていた。これらは「必要とされる必要性」に集約でき，要素「内的希求」として説明できる。さらに，「子育ての終了」を自覚し「介護との両立」ができる活動への動機は，中年期という発達期に期待される行動への関心を示すと分類した。さらに彼女らは「社会とのつながり」を求め，「社会貢献」への関心を見せていた。これらは要素「文化的要請」であると考えられ，また「市

表３　対象者の語りの具体的内容（活動の動機・関心に関する発話）

事例	語りの具体的内容（例） 発言順に掲載。同様の発言はまとめ（）内に数を標記	得られた カテゴリー名	該当する キーワード	該当する 要素
A （8）	自分の子育てを活かして。よいこと悪いことひっくるめてですけど，それを活かした目線で何かしたいな，て考えてて。(2)	子育て経験を活かして	必要とされる必要性	内的希求
	市の広報誌にですね，この子育てサポーターの講座のお知らせが目に入ったので。いいことだよな，と	市民としての望ましさ		信念
	ちょうど，あの，父がペースメーカーをつける手術をして，学習塾のスタッフをちょっと続けていけそうになかったので，辞めたばっかりだったんですけど，手術をしてからちょっと元気になってきたんですよ。そしたら私は何をしようかな，と思ったのがあって。自分がこう家にばかりいるっていうのも，あまりにも。	介護との両立	発達的期待	文化的要請
		社会とのつながり	社会的機会	
	自分がこう，どこかでこう他の方のお役にたてたりとか，自分の発散というか。	社会貢献	社会的機会	文化的要請
	孫ができるまでは，ねえ。孫ができてもずっと一緒に居られるわけじゃないから，よそのお子さんたちのためにね。	次世代のために	次世代への貢献	世代性関心
	子どもが好きなので，赤ちゃんとか見てると元気が出るので（2)。	子どもが好き	次世代への関心	世代性関心
B (10)	自分の出身が関東なので，子どもをＡ県（九州）で産んで育ててましたので，お友達はいますけど，子どもが小さかった時に越していないので，地域の，自分の中に地域に根差してるっていう実感がなかったんですよね。こういう活動をしていれば根ざせるだろうと。(2)	社会とのつながり	社会的機会	文化的要請
	お家でずっといるよりは，外に自分が出て行って，何かそういうきっかけになって社会参加できたほうが楽しいじゃないですか。	社会とのつながり	社会的機会	文化的要請
	子育てサポーターだったら，専門の勉強はしていませんけど，実際派遣でも子どもたちとか関わってきましたし，実際１，２年未就園児と接してたって言う，そういう自分のある意味キャリアを活かせるかなって思ったのがきっかけでしょうね。(2)	仕事経験を活かして	必要とされる必要性	内的希求
	子育てひと段落終えたっていうのもありますね。	子育ての終了	発達的役割	内的希求
	姑なんですけど，同居を始めて３年目なんですけど，ちょっと認知があって。とっても大変な介護ではないけど。でも一緒に住みましょうってなったときに，私の精神衛生上，自分ができる，何か楽しかったり打ち込めたりするものがないと，自分の精神的なバランスが崩れると思ったので。(3)	介護との両立	発達的役割	文化的要請
		自分のための新しいことへの関心	必要とされる必要	内的希求
	それから，社会の一員として自分の存在価値じゃないけど，自己実現じゃないけど，そういったものをちょっと持っていたかったんでしょうね。	市民としての役割	社会的機会	文化的要請
C （7）	子どもも育って。自分が何か社会の中でできるものがあるんだったらお手伝いさせてもらおうかなっていう思いの中でその子育てサポートの講習会に参加させてもらおうと思ったのがきっかけですね（4)。	子育ての終了	発達的役割	文化的要請
		自分のための新しいことへの関心	必要とされる必要性	内的希求
	ラジオで市の広報が流れてきて，市が募集しているならさせてもらおうかな，と。	市民としての望ましさ		信念
	だから，社会貢献の，自分の中では社会貢献の一端かなって思わせてもらって。前は，災害ボランティアも行ってたんですよ。だけどだんだんと無理かなったっていうのがあったりして。その中で又ボランティアとして動けるんだったら，子育てもどうだろうって感じでしたね。	仕事経験を活かして	必要とされる必要性	内的希求
		社会貢献	社会的機会	文化的要請
	お母さんたちがちょっとでもコミュニケーションが取れるんだったらとか，そのあいだだけでもお母さんたちが楽をされるんだったらそれもいいかなってぐらいの感覚でした。	次世代の子育てへの関心	次世代への貢献	世代性関心

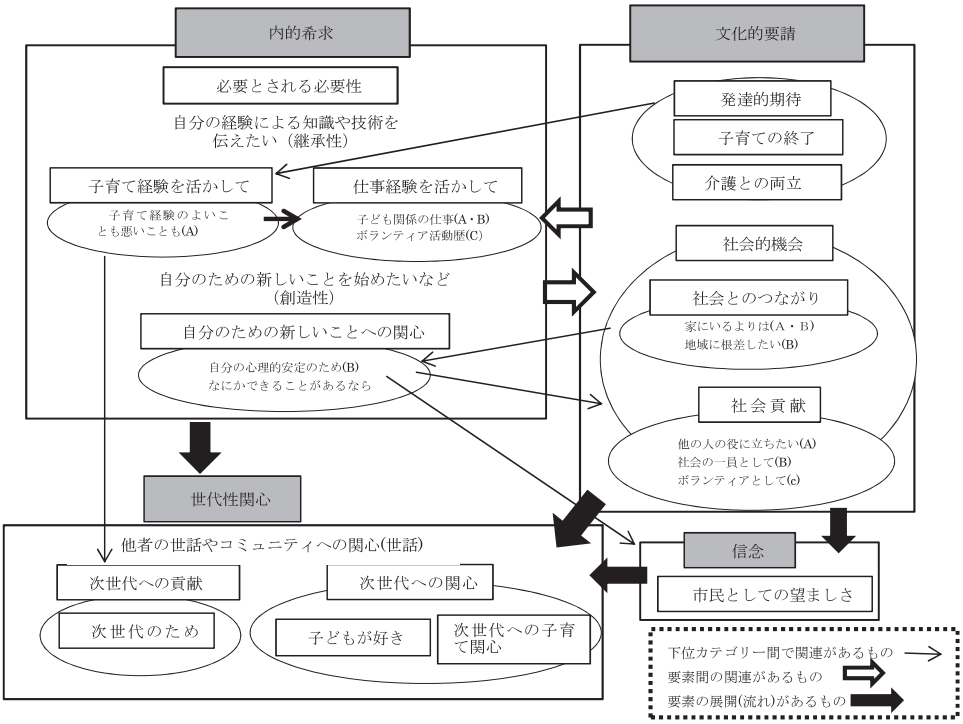

図２　活動の動機・関心の内容とプロセス

民としての望ましさ」という要素「信念」との関連が見られた。この二つの要因が，「次世代への貢献」や「次世代への関心」へと展開し，ここには他者の世話やコミュニティへの関心という世代性のテーマである世話が確認できた。以上から，活動の動機・関心の内容には，世代継承性・創造性・世話の世代性のテーマが確認でき，内的希求や文化的要請による動機が世代性関心につながっていることも確認できた。

すなわち，彼女らは，子育ての終了と介護の開始である中年期にある自分への発達的期待を自覚し，子育て経験を持つ自分ができることとして，子育て経験や仕事経験を活かして何かを伝えたい，新しいことを始めたいと願い，社会とのつながりを貢献という形で見いだし，期待に応える行動として，次世代である子育て世代や子どもに関わることのできる支援活動やボランティアへ関心を示していたと言える。

活動への考え・計画段階に関する発言内容とプロセス

子育てサポーター活動への考えや計画に関する発言内容を表４に，得られたカテゴリーの関連とプロセスを図３に示す。得られたカテゴリーとしては，前段階の次世代関心を具体的に子育てサポーター活動への取り組みへとつなげた「決断（決断のタイミング）」と「活動の見通し（できると確信）」の２つであった。すなわち，次世代のために何かしたいという関心を高めて，ちょうど家庭や介護，仕事との関連で決断に適したタイミングにあり，専門の資格はないが，研修を受けることでできるだろうという確信をもって取り組みを始めたことが分かった。

さらに，子育てサポーターの活動をやってみて，その仕事のペースや量は家庭や介護と

の両立がしやすいものであり，体力的にも自分のペースにあっていたことから（「活動の計画」），「活動の見通し」として，今後もずっと続けられるだろうという継続への意欲も見られ，この取り組みについての考えや計画を深めるプロセスも確認された。

活動の行動段階の発話内容とプロセス

子育てサポーターをはじめ活動していることに関する発言内容を表５～７に，得られたカテゴリーの関連とプロセスを図４に示す。この段階に関する発話内容は147であった。第一に「他者との交流」「自分の支え」「スタッフとの交流」の３つのカテゴリーを「社会の広がり」としてまとめ，「継続への意欲」「自分の可能性の広がり」を「活動の見通し」

表４　対象者の語りの具体的内容（考え・計画に関する発話）

事例№	語りの具体的内容	得られたカテゴリー	該当するキーワード	要素	段階
A（2）	ちょうど，あの，父がペースメーカーをつける手術をして，学習塾のスタッフをちょっと続けていけそうになかったので，辞めたばっかりだったんですけど，手術をしてからちょっと元気になってきたんですよ。そしたら私は何をしようかな，と思ったのがあって。	決断のタイミング（介護との関連）	決断	取り組み	動機・関心から取り組みへのプロセス
	その講座が，そういうことしたいなって内容で。でも資格がなかったので，保育士の免許とか持ってないので，だからこれでできるんだったらやってみたいなっていうのが。	できると確信	活動の見通し		
B（6）	こういう講座を受けるっていうのを，自分の中で積極的に参加したいなって思う時期だったと思うんです。アルバイトをしていたんですけど，結局経営不振で来月からよろしいですって言われて。はて，これから私はどうやって生きていこうかなって。(3)	決断のタイミング（仕事との関連）	決断		
	これからどう生きていこうかなって思った時に，家庭に収まるのはちょっとさびしかったし，もっと大変な介護であれば余裕はなかったけどそこまででもないし。(2)	決断のタイミング（介護との関連）	決断		
	３か月ほどでしたけど，そのサポーターの資格をいただいたので，もうこれで引き続きこういう活動をしていこうと思って，したんです。	できると確信	活動の見通し		
C（1）	資格とか専門的な勉強はしていないけれど，この講座で子育てサポートって言う証明書みたいのをいただいて，これでできるんだと思って。	できると確信	活動の見通し		
A（3）	両立できるように，自分の無理が行かないように。替りの人が何人かいる仕事なんです。(3)	仕事のペース・量（家庭や介護との両立）	活動の計画		世代性行動から取り組みへのプロセス
B（3）	この活動は自分で計画できますから。活動が多いとちょっと自分の中でしんどくなって。続けていきながら，ゆっくりする時間も持ちながら，自分をコントロールしていこうかなって。ちょうどいいぐらいの。(2)	仕事のペース・量（体力）	活動の計画		
	とにかく私自身が楽しいからこれからもずっと続けられます。	継続への意欲	活動の見通し		
C（5）	自分は２時間から３時間ぐらいしかボランティアはないので，なので自分は行かせていただくときは頑張って行かせていただこうと思っているので，お仕事の都合と予定とを見ながら行かせていただいているので負担は全然なくて。	仕事のペース・量（家庭や介護との両立）	活動の計画		
	この活動を，今から先もずっと続けていけることだろうと思って。	継続への意欲	活動の見通し		
	サポーターの依頼が一定じゃなくてすごく需要のある仕事ではないけれど，いざという時には必要。それが私の生活ペースには合ってるんです。（３）	仕事のペース・量（家庭や介護との両立）	活動の計画		

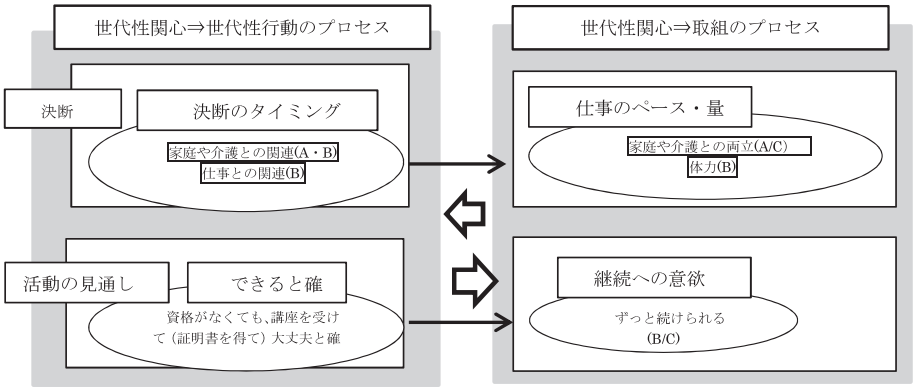

図３　考え・計画段階の内容とプロセス

として，「サポーターの先輩たちからの学び」を「活動の継承」とした。この３つの中位カテゴリーは世代性テーマである「創造性」そのものと評定した。すなわち，彼女らは活動をすることで自らの社会が広がったことを喜び，先輩の姿から学ぶこともあり，活動を今後も続け，自分の可能性の広がりを感じていることがわかった。

また「役に立つことの大切さ」「継続への力」は「役に立てた喜び」として，「自分ができることの自覚」「自分がすべきこと」「自分がなりたい姿」は「役割の認知」として命名し，この２つのカテゴリーは世代性テーマである「世話」として評定した。すなわち，活動をすることで，自分が他者の役に立っていることを喜びながら，一方で自分ができることは，専門的な資格によるものとは違い，支援の場の雰囲気づくりや子育てのお手伝いであり，現代のお母さんを育て手助けすることであり，そうなりたいと感じていることがわかった。

さらに「伝えたいこと」「子育ての違いの認知」「自分の子育てのふりかえり」の３つのカテゴリーは「子育て経験」として，さらに「次世代への理解」「次世代の問題の発見」「支援の必要性」は「次世代への視点」としてまとめ，その他「活動経験の意味づけ」とともに３つの中位カテゴリーを世代性のテーマである「世代継承性」とした。特に「子育ての違いの認知」においては，現代の子育てと自分の子育ての違いを認知しているが，否定的あるいは批判的な態度に基づくものではなく，違いを認知することにとどまっていた。また，「支援の必要性」としては，こうした活動を通して子育て支援の場が現代に必要なものであることを認知したことが語られていた。すなわち，彼女らは，自らの子育て経験を通して，現在子育てをする世代へ「大丈夫」「子育ては楽しいのよ」「私も同じだったのよ。」などメッセージを伝えたいと思っている。活動を通して現在の子育て世代と自分の子育ての違いを知るが，それを否定することなく違いを認知し，時には自分の子育てを振り返り，反省したり「あれでよかったのだ」と肯定したりし，こうした行動によって自らの子育て経験が生かされたなど活動を意味づけし，次世代への新たな視点を持つに至っていた。

以上から，彼女らが活動をやってみて感じること，気が付いたこと，考えていることの語りの分析の結果，「創造性」「世話」「世代継承性」の３つの世代性のテーマが抽出され，彼女らにとっての子育てサポーター活動とは，世代性行動そのものであると言えよう。

表５　対象者の語りの具体的内容（行動の段階に関する発話）その１

事例	語りの具体的内容	得られたカテゴリー		該当するキーワード(上位)
		下　位	中　位	
A（83）	サポーターの先輩に話が聞けたりするのが，私の今後の人生に，生きてきたかなって思います。（５）	他者との交流	社会の広がり	創造性
		今後の生き方への見通し	世代間のつながり	世代継承性
	自分たちも子育てを経験して，今の子どもさんたちのお世話をするのに，自分たちの子育てとは違うこともいっぱいあるんですよ（４）	子育ての違いの認知	子育て経験	世代継承性
	自分も育児書を読みながら，遅れてることがすごく心配になったりとか，後で考えるとそれが大したことじゃないんですけど，その時は悩む。今こんなようなところができてものすごくよいなって思うんですよ。（８）	支援の必要性	次世代への視点	世代継承性
		伝えたいこと（私も同じ）	子育て経験	世代継承性
	離乳食のこととか，歩く，断乳とか，ハイハイする，もういろんな個人差があると思うんですけど，大丈夫って言うのをね。伝えられるから。（７）	伝えたいこと（大丈夫）	子育て経験	世代継承性
	やっぱり自分の家にいて一人で居ることが多いといろいろ考えすぎる。若い人とお話をするって言うのがいいですよね（８）	他者との交流	社会の広がり	創造性
	どういうことを悩んでいらっしゃるかっていうのがそれを解決するお手伝いになるっていうのが，お役にたてたかなっていうのが喜びにつながっていくし，これからの自信になって，続けていきたいと思うし。（３）	活動の自信	役に立てた喜び	世話
	（自分の母親が）80を超しても自分たちが役に立つって言うのが一番の喜びらしいんです。わかりますよね。人のお役にたてるって言うのが，生きる力になってるって，わかります。今の私もそうですよね。（４）	役立つことの大切さ	役に立てた喜び	世話
	家でいろいろ，親の介護のこととかであるんですけどお話ししたりだとかして，帰る時はすっきりするんですよ。	他者との交流	社会の広がり	創造性
	問題を持ってるお子さんとか，そういうのはこっちはできないですよね。だから一緒に相手をして，私も詳しくそういう勉強をしてないから，赤ちゃん見ててあげるから（スタッフに）聞いてきたら？って。子育てのこれがサポートだって思うんですよ。雰囲気をつくるのが役割だと思うんですよ（８）	自分ができることの自覚	役割の認知	世話
	何か月だからあればできるでしょ，これができるでしょっていうのは逆にお母さんたちの心配ごとになる。だから迷いを受け入れる雰囲気づくりを。	自分ができることの自覚	役割の認知	世話
	自分より先に経験されている方のすごさを知ると，自分もこの先続けていきたいと思うんです。自分もそういうような先輩になれたらいいなって。	サポーターの先輩	活動の継承	創造性
	この子育てサポーターって言うのは，自分で子育てを見つめなおしたり，今後も自分が生きていくとき，自分より下の方からも学ぶことがいっぱいあるし，上の人たちの話も自分が余裕を持って聞けるようになってきてる。	今後の生き方への見通し	世代間のつながり	世代継承性
	自分が子育てを失敗したから繰り返さないように活動してるっていうのが，間違いだと思うんですよ。今一生懸命生きてる自分の子どもたちに対しても失礼だと思うし。（２）	活動の意味	子育て経験	世代継承性
	たくさんお友達を作っておおらかに育ててもらいたいなって，伝えたいです。自分も振り返ったら楽しかったって言うのをいっぱい伝えて。（７）	伝えたいこと（楽しみ）	子育て経験	世代継承性
	いまどきの子育てにかかわる機会って言うのがなかったので。その時はなんでこんなに泣かしてるんだろうとか批判的に見てました。今はちょっとこう控えてみてあげるっていうのができる（４）	次世代への理解	次世代への視点	世代継承性
	何しに来てるんだろう。どうかかわっていいのかわからなくてイラッと来るお母さんたちもいますよね。学ぶ姿勢って言うのに気づかされますよ。	次世代の問題の発見	次世代への思い	世代継承性

表６　対象者の語りの具体的内容（行動の段階に関する発話）その２

事例	語りの具体的内容	得られたカテゴリー		該当するキーワード(上位)
		下　位	中　位	
A (83)	もうお母さんが自分たちも小さい時から塾や習い事をしてて，もうお母さんの育ち方も違うし自分たちの子育ての考え方時代とは違うんですよ。今の子育ての現状とか，聞かないとわからないことがいっぱい（６）	子育ての違いの認知	子育て経験	世代継承性
	できるだけ本音で，きれいごとじゃなくって理想じゃなくって自分もこういう思いがあったって言うのを伝えていくことが自分の活動のあれじゃないかなって。（６）	伝えたいこと（私も同じ）	子育て経験	世代継承性
	私の周りの人たちも，私がこれをさせていただいているってのが安心になっているので。お母さんはね，子育て支援があるからあなたがいなくても大丈夫なのよって，息子に。（５）	自分の支え	社会の広がり	創造性
	サポータだけじゃなくて他の子育て支援活動もできるみたいなんですよ。だから広げていけたらいいなって。	活動の広がり	活動の見通し	創造性
B (27)	家庭のなかって一つの社会だから閉鎖的でしょ。でも外に出ていくってことは人と出会えるでしょ。おしゃべりもできますよね。若い人から刺激も受けますよね。	他者との交流	社会の広がり	創造性
	行ったらスタッフさんとは顔なじみになりますし，サポーター同士も顔なじみになります。そうするとコミュニケーションが取れますよね。（３）	他者との交流	社会の広がり	創造性
	とにかく私自身が楽しいからこれからもずっと続けられます。	継続への意欲	活動の見通し	創造性
	自分の窓口を広げておけば，いざそういった活動依頼があった時に動ける準備がありますよって言えますよね	自分の可能性の広がり	活動の見通し	創造性
	TPO がわかんないお母さん。個々の場では静かにしてなくちゃいけないのよとか，個々の場では他人の迷惑をかけてはいけないのよってことを認識できていなくて親になっていった人がいるかなって思うんです（４）	次世代の問題の発見	次世代への視点	世代継承性
	まずママを変えるには子どもを変えるんだねって言ってママ教育をしなくてはいけない時代かもしれません。	すべきこと	役割の認知	世話
	子どもたちや若いお母さんたちと接したりすると，自分の今までがすごくフラッシュバックするのね。よいことも悪いことも。結構子どもを叱ったりとか，ああなんであの時ああいうことをしたんだろうってことが。プラスよりもマイナスの方がフラッシュバックして，良い意味で自分の中で自己反省の場なのよね。(12)	子育てを反省	子育て経験	世代継承性
	私はああいう育て方しかできなかったと思うんですけど，満足って言えないかな。でも子どもたちはいい子になってくれて。それでいいんですけど。（２）	子育てを肯定	子育て経験	世代継承性
	サポーター同士で言うんですけど，今はこういう施設があっていいよね。私たちのころはなかったもんね。今は多分必要なんでしょうね。だから上手に使えばいいよね。そのお手伝いができればいいよねって。（３）	支援の必要性	次世代への視点	世代継承性
		自分ができること	役割の認知	世話
C (46)	養成講座を受けてみて，この研修を受けた人たちはどこでボランティアをしてるんだろうって。何ができるんだろうこれからって。できることを探していた感じ。	自分ができることの模索	役割の確認	世話
	曜日によっては言語の障害がある日とかイベントとかいろいろあるみたいなんですね。でも私はそんな専門知識はないから，子どもと一緒に遊ばしてもらったり，その間にお母さまたちがコミュニケーションとられる中に行かせていただいて。子育てが楽になってくれればありがたいかな。（5）	自分ができることの自覚	役割の確認	世話
	やっぱりお母さんたちを本当にフォローしてあげる，子どもを育てるっていうよりお母さんたちをフォローしていくことが大切かなって思いました。（３）	自分がすべきこと	役割の確認	世話
	今の（時代は子どもが少なくてその子ばっかり見てるから，いろいろ心配になるのかしらと思いますね。（３）	子育ての違いの認知	子育て経験	世代継承性

表７　対象者の語りの具体的内容（行動の段階に関する発話）その３

事例	語りの具体的内容	得られたカテゴリー		該当するキーワード(上位)
		下　位	中　位	
C（46）	自分たちの時代の子育ては，公園にみんなが集まるのは当たり前だったから。それでみんなで育てたんだけど。でもマンションから直接こう〇〇に連れてくると，地域で育てるっていうのが減ってるのかな。（４）	子育ての違いの認知	子育て経験	世代継承性
	子どもを持ってみて，子どもに教えられることが大きいかな。それを今のお母さんたちに伝えたいですよね（７）。	伝えたいこと	子育て経験	世代継承性
	周りの大人，50歳ぐらいの近所の先輩たちが大丈夫よって。その環境がとても大事かなって。だから今サポーターに行って悩んでいるお母さんに大丈夫よって言ってあげられるような存在でありたいなと。（４）	伝えたいこと（大丈夫）	子育て経験	世代継承性
		支援の必要性		
	（活動で）こうした方がいいんじゃないとかいうと，（利用者のお母さんが）こうしたらいいんじゃないって言ってくれるの。あれを見てると，あ，私の子育てとははっきり違うって思うし。	子育ての違いの認知	子育て経験	世代継承性
	私にはできなかった子育てだなって思うんですよ。でもそれでもいいんです（２）	子育てを肯定	子育て経験	世代継承性
	私が思い出す子育ては，私たちは仲間で育ててきたなっていうのはそう。だからこそお母さんたちにそんな関係もあるんだよって伝えてあげられたらって言うのはありますね（４）	伝えたいこと	子育て経験	世代継承性
	自分ができるペースで続けていきたいなあと思います。	継続への意欲	活動の見通し	創造性
	ボランティアで子育て経験を活かしたいっていうよりは，子どもを育ててきたというだけのものかもしれないですね。（活動で）活かされたなって感じです。（４）	活動経験の意味づけ	子育て経験	世代継承性
	（利用者に）暖かい感じを持ってもらえて，また次もあそこに行こうね，あのおばちゃんいるよって言ってもらえるような，そんな存在になれたらいいなって（３）	自分ができること	役割の確認	世話
	具体的にどうとかではなくて，またねって，お願いしますって言って帰って下さるときには，あ，ありがたいなって，自分みたいのが役にたったかなって思いますけど。（４）	役立つことの大切さ	役に立てた喜び	世話

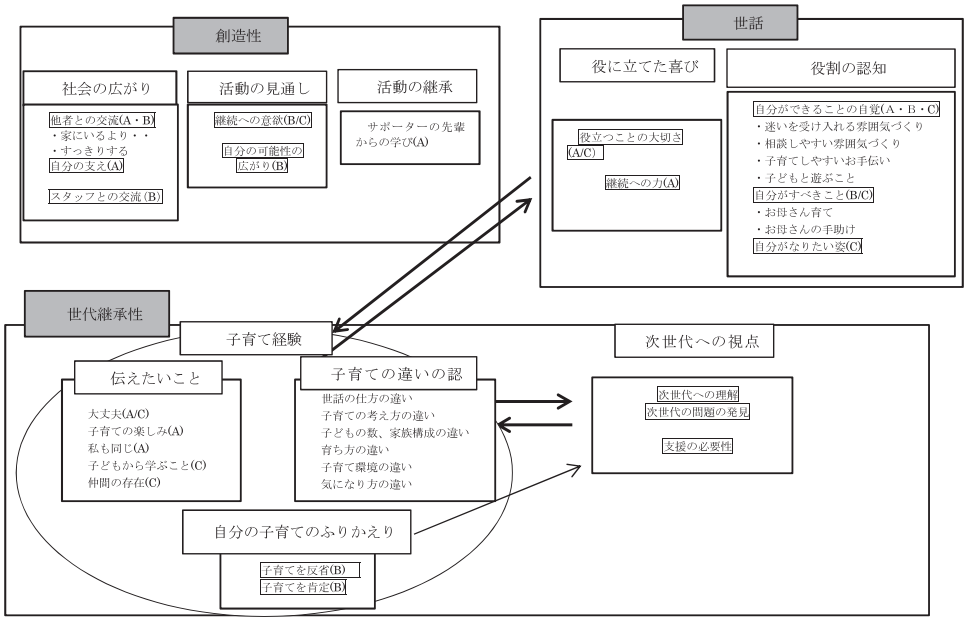

図４　行動の段階の内容とプロセス

まとめと今後の課題

第一に，結果から子育てを終えた，子育てサポーターとして活動する中年期女性を対象に行った調査の語りが，の世代性概念構成図の要素を持ち，彼女らが活動によって世代性を獲得していることが見出せた。

第二に，この世代性獲得のプロセスにおいて，自らの子育て経験が密接に関係していることが示唆された。まず動機・関心の段階では，自らが子育てを終了し介護が課題となる発達期にあることを自覚し，子育て経験を活かして何か新しいこと，自分ができることを始めたいと願い，次世代への関心を示していた。次に考え・計画の段階では，今自分ができる活動として，家庭や介護と両立でき，次世代への関心を実現できるものとして子育てサポーター活動を選択していたことがわかった。さらに行動の段階においては，活動を行ってみて自分の社会を広げることができた喜び，自分の可能性の広がりを実感し，活動の中で自分ができることは何かを自問自答し，専門的資格を活かした仕事ではなく，子育て経験をこそ活かした支援であり，役に立った喜びや大切さを感じていた。また次世代のお母さんたちへ自らの子育て経験から得た伝えたいことがあった。それは現代の子育てと自分の子育ての違いを認知しながらそれを否定し教えることではなく，穏やかに子育ての楽しさを伝えることであり，子育て支援の場の雰囲気づくりに役立ちたい，自分のできることで次世代の子育てを手伝いたいという，強い次世代への想いとして表現されていた。その上でこうした子育て支援施設が必要であることも理解し，そこでの子育てサポーター活動が，自らの子育て経験を活かした世代性獲得の場となっていることにも気が付いていると言えるであろう

第三に，彼女らはこうした活動を通して自らの子育てを振り返り，活動経験の意味づけを行いながら，活動を仕事のペースや量としても適切であると考え，継続への意欲を持っていた。このことから，子育てポーター活動に参加することで世代性を獲得し，今後も子育て支援活動に参加したいという参加動機を高めていたと考えられる。

以上から，子育て経験のある中年期女性を子育て支援の人材として活用することを目的とした，子育てサポーター制度の在り方は，彼女らの世代性獲得に役立つ点での一定の効果があると評価できるであろう。

一方で，本研究においては，いくつかの今後の課題が存在する。まずは，子育てサポーターとして３名の中年期女性を対象としており，対象者の少なさにより限定的な結果であることが指摘できる点である。さらに，類似した事業とは異なる，この事業だからこその子育て経験の活かし方や事業における課題については言及することができなかった。今後，より一般化できるような大規模な研究手続きの検討が必要である。

また，子育てサポーター制度のあり方ついての検討も課題である。事前の研修の内容や活動中の支援体制など，制度自体の充実に関する研究も不可欠である。子育て支援研究においては，施策による制度や事業の是非が欠かせない。どうしたら中年期女性の子育て経験が，子育て支援活動において，十分に活かせるのか。制度的な検証は今後も継続されるべきであろう。

さらに子育て経験の質的な検証の必要性も指摘できる。今回の対象者となった３名の中年期女性たちが，どのような子育てを経験したのか，そのエピソードや想いまでを分析，検討するには至らなかった。今回検討した世代性には，前発達段階である青年後期の体験

も大きく関与したことは推測できる。これらの縦断的研究の方向性も残されていよう。これも今後の課題である。

子どもを取り巻く人的環境としての中年期女性の活用に関する研究，また中年期女性の生涯発達心理学的視点からの研究の可能性についてなど，さらに検討が必要である。

謝　辞

本研究の調査にあたり，面接にご協力頂きました，子育てサポーターとして勤務されていた３名の協力者に，感謝いたします。

文　献

総務省 HP；重点的に推進すべき少子化対策の具体的実施計画について（新エンゼルプラン）．（情報取得　2011/9/11）http://www１.mhlw.go.jp/topics/syousika/tp0816-3_18.html/

厚生労働省 HP； 少子化対策プラスワン．（情報取得　2011/9/11）http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/09/h0920-１.html

加藤道代：「子育て経験をもつ成人女性による一時預かり活動　－支援することによる発達－」，東北大学大学院教育学研究科研究年報，58，153-168，2010.

田渕恵：「中高年者による若年世代支援プログラムにおける関心とその年齢差：世代間交流とジェネラティビティの視点から」，生老病死の行動科学，14，3-12，2005.

Erikson,E.H.：Childhood　and　society. NewYork:W.W.Norton&Company, 1950/1963.（仁科弥生（訳）：『幼児期と社会Ⅰ』.みすず書房，343-345，1977/1980.）

Ericson,E.H,Ericson,J.M.：The Life cycle completed.Expanded ed.　NewYork:W.W. Norton & Company.1997（村瀬孝雄・近藤邦夫（訳）：『ライフサイクル，その完結　増補版』．みすず書房．2001.

McAdams,D.P.,&deSt.Aubin,E.Generativity and adult development. Washington,D.C.,: American Psychological Assosiation. 1998.

丸島令子：『世代性と人格的成熟』.ナカニシヤ出版．12-13.2009

丸島令子・有光興記：『世代性関心と世代性行動尺度の改訂版作成と信頼性，妥当性の検討』，心理学研究，78，303-309，2007.